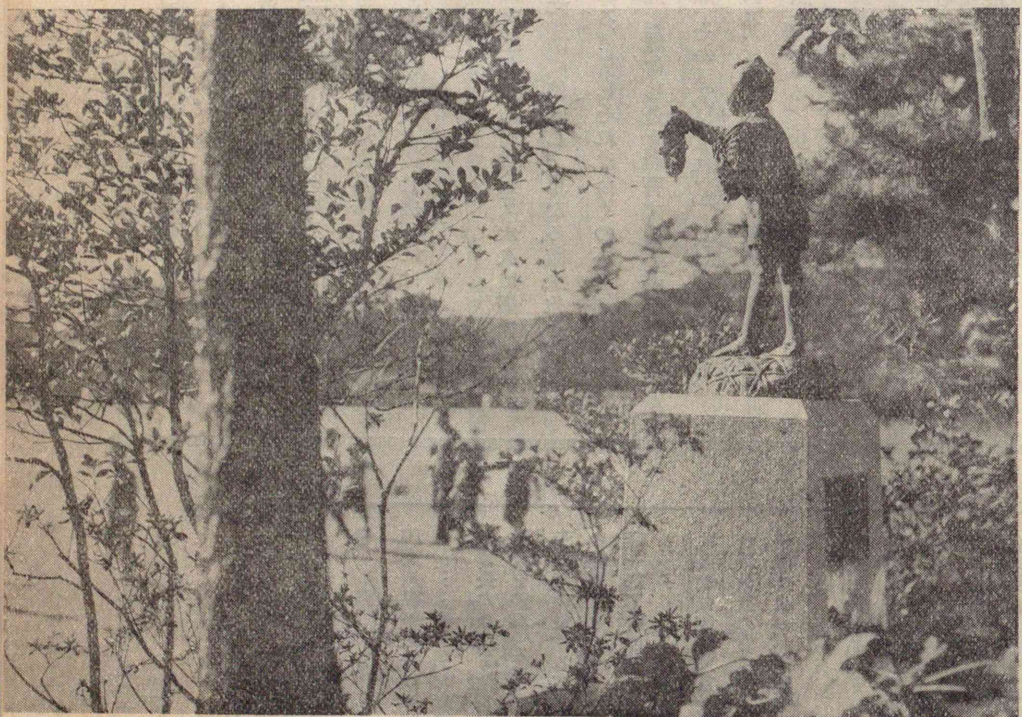


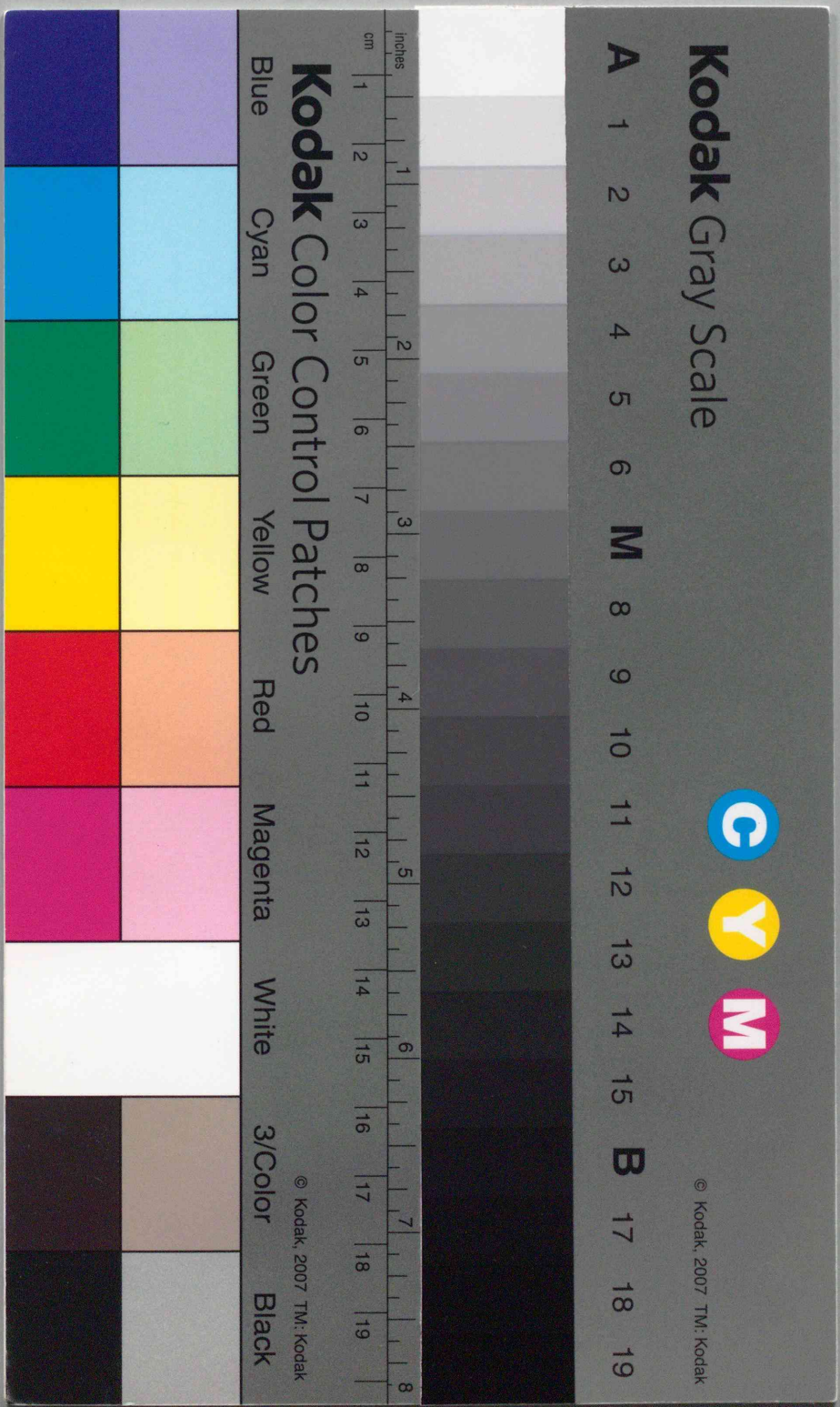
武相教育

號九十八第 年七九五二九紀



行發會育教縣川奈神

昭和八年九月廿五日發行(每月廿五日發行)
昭和十二年九月廿五日發行(每月廿五日發行)



日夜出征軍人を送る歡呼の聲。ラヂオに映畫に新聞に刻々報道せられる戦場の情勢。我等の血は湧き肉は躍る。就中情夫をも立たせ鬼神をも泣かしむるは彼の壯烈無比なる肉弾勇士の續出である。君國の爲將又正義人道の爲自己の凡てを抛つて之に殉ずる崇高なる姿、其處に我々は端的に滅却小我至達大道の妙諦に突入する人性至純の究極具性を見るのである。然らばその發動原力は何か。至誠明澄透徹果敢堅固不拔のその力は、單なる外的教示や模倣等に依つて得られるものではない。併し是を凡て自然的本能的のものと斷じ去るには餘りにも至聖至高である。我等は是を日本精神と呼ぶ。

日本精神の検討は既に幾多の人々によつて爲し盡された感がある。併し又永久に盡きぬ課題とも云へよう。それは其の根源が深く人間としての生命性に依據し、單なる概念化せられたる知のよく浸透到達し得る處のものではないからである。併しそれは全くの不可知の超經驗のものとは云へない。具現性に於て我々は是を把握し理會し是を教育する事が出来る。其處に日本教育の道が確在する。その道を闡明するは知、その道の上を行かしむるものは行、但常に忘る可らざるは本體としての生命性それ自體である。誠む可きは其の生命追求の深化を阻む機械的無氣力化膠着化であり、心意的偷安概念化である。生命は流動し踊躍する。力は動であり働である。

日本精神は不動にして動、故に古くしてしかも若い。武相の文化も亦、古い歴史と日進の文華とが渾然融合して自ら一境地を形成し様として居る。されば新しい養と舊い酒、舊い外貌と新しい生命とが親和統合せられて全一體となり生成發展する相こそ武相教育の本領ではないか。

「武相教育」出でて茲に歳あり、日又新にして内に深化し外に伸展し來つて居る。知による論說、行に據る研究體驗、打つて一丸となり更に肉弾の至境を志す。生命への熄まざる追求教育理想への熱烈なる思念、幸にして誌上に旺盛して、茲幾多の古戰場を含む武相の山河に浸潤せむことを。

神奈川縣下に於ける

明治天皇聖蹟を調査して

聖蹟調査委員 磯 貝 正

その十

昨年十月一日及五日の二日間、赤木、永野、中山桑名櫻井の五氏と筆者とは、横濱市及戸塚小菅谷小向各方面の聖蹟を調査し相當有益なる資料を手にするを得たが、偶々筆者は兩三年前から保土ヶ谷區郷土誌編纂に着手し此の程其の大略を完成した。東海道筋にある土地柄だけに聖蹟としての光榮ある記録も數々あるのである。従つてこれに關係ある事柄は特に意を用ひ細大漏さずその資料をあさり、努めて完璧を期したつもりであるから、次下數回に亘り保土ヶ谷に於ける聖蹟を登載して他の研究の資とする。

- 一、御 東 幸 明治元年十月十一日
- 二、御 還 幸 明治元年十二月八日
- 三、御 再 幸 明治二年三月二十七日
- 四、鎌 倉 行 幸 明治六年四月十四日
- 五、右 御 還 幸 明治六年四月十七日
- 六、箱 根 行 幸 明治六年八月三日
- 七、右 御 還 幸 明治六年八月三十一日
- 八、北 陸 御 巡 幸 明治十一年十一月九日
- 九、妻 田 行 幸 明治十四年四月二十八日
- 十、右 御 還 幸 明治十四年五月一日

一、御 東 幸 (明治元年十月十一日)
内憂外患交々至る幕末の非常時を切抜けて、慶應三年十月十五日慶喜の大政奉還に依つて王政は復古

し、萬機御親裁の時節到來し、翌慶應四年八月二十七日、明治天皇は御年十七歳を以て御踐祚遊ばされた。かくて九月八日改元して明治と稱し爾後一世一元の制を定め給ふと共に、庶政一新の大御心から東京御遷都の思召に依り御東幸の趣仰出された。

近々東京へ 御臨幸被遊東海道筋御通駕に付沿道筋近在近郷より拜し罷出候事勝手次第被差免候間 御通駕筋家々のものは銘々宅軒下土間へ罷出拜し可申近郷近在之者共は最寄宿外其之空地之場所へ差置所役人共爲附添候間無作法無之様拜し可申候

但雨天之節は差余爲相用 御通駕間近に至候は取除候様可致事

一沿道筋諸侯領地は其領主々々により辻固間道其外屹度取締被仰付候事に付馬入川より川崎迄之街道・脇道・間道辻固は當裁判所より警衛隊並兵隊足輕差出候事

一御東幸に付下向之人々旅籠支度・人足賃渡船賃等札渡しに而於會計取締後拂之趣に付其段宿々におゐて心得置可申事

一松明一宿に六十把づゝ用意いたし置末半刻に至り候は御迎として御道筋へ差出管に付宿々におゐて用意いたし置近々見分之もの可罷出候間其節見分を請可申事

宿々問屋年寄並助郷惣代申取調當裁判所へ差出可申事
一七拾歳以上孝子義僕職業出精之もの取調當裁判所へ可申立事
一御膳所御用水は成丈け清水並 風聲舎取建候空地、間口三間餘奥行四間餘御本陣近場調置可申出尤御道調到着見分之節當方出役之もの打合萬端差圖可致積
右之通相觸候間得其意街道筋宿村におゐては、諸事不都合無之様別而心得附小前末々に至迄不洩様相達、近在村々へは宿々におゐて通達いたし別紙令請印刷付を以急速順達留より可相返もの也
辰九月十九日 神奈川府裁判所
神奈川より神戶迄 鶴見より受取保土ヶ谷へ(繼(芝生村御用留))
かくて九月二十日午前八時京都を御發駕あつて東に向はせ給ふた。而して十月十一日藤澤驛を御發駕あつて戸塚驛に御晝休の後、品濃坂を御越しになり境木にて御小休、次で保土ヶ谷本陣にて御少憩あり神奈川へ御着駕となる。東巡日誌に
○十一日快晴、卯之半刻藤澤驛御發駕、股野村御小憩、戸塚驛御晝休、境木村、程ヶ谷驛御小憩、申之刻神奈川驛御着駕、是日外國人芝生村ニテ御行装ヲ拜觀シ、御通駕之節碓泊ノ外國艦ヨリ祝砲ヲ發シ神奈川府藏臺ヨリ應砲ヲ發ス(下略)
とある。尙ほ木戸孝九手記摘要には更にこの邊の事が詳細に記されてある。即ち
十月十一日晴、雨、三日前ヨリ寒風尤甚、今日外國人拜禮ヲ願ヒシ故供奉之面々當非ナシ、十字前戸塚へ御著駕二字過程ヶ谷へ御著駕、是ヨリ供奉之面々皆騎馬ナリ、三字ヨリ四ノ間ニテ拜禮被仰付ル、ノ御沙汰ナリ、芝生村(拜禮所ノ仕構アリ、御通駕之御折各國之モノ男女拜見ニ出ルモノ其數ヲ不知、米(恐ハ佛ノ誤)英之兵隊

目 次

卷 頭 言	二
神奈川縣下に於ける明治天皇聖蹟を調査して	三
聖蹟調査委員 磯 貝 正	三
副會長大森氏を送り中原會長、加藤副會長の兩氏を迎ふ	五
歩及走に於ける正常歩と教練に於ける速歩との關係	六
尋一終了時に於ける書方力についての調査	九
神女師附屬・低學年教育研究部	九
世界教育會議東京大會	九
合科教授の實際	一六
辻村先生の「地圖雜感」を讀みて	二〇
井 出 榮	二〇
兒童生徒作品欄	二四
領臺四十年後の臺灣觀察	二八
寺 内 時	二八
斷 感	二八
智 宇 兒	二八
教育瑣談 (其の六)	二九
高 橋 新 太 郎	二九
各地通信	三一
會員の皆様へ	三一
編輯後記	三二

歩及走に於ける正常歩と 教練に於ける速歩との關係

神奈川縣師範學校訓導 朝 倉 良 夫

思辨的にも、實踐的にも此の正常歩と速歩との關係については、昏迷を來してゐるのか現状ではないだらうか。現目に於て正常歩が取材されて來て既に一年有半を閲してゐるが、明確なる推論の餘りにも少いといふ事實も、其の一斑の責任ではなからうかと思ふ。

これが私を驅つて敢て此の問題に手を染ましめた主要なる因子である。昏迷であるといふ其の現状に於ける所論は究極する所二つに歸納出来ると思ふ。其の一は正常歩と速歩とに根本的な差異を認めるものであり、其の一は現状に於ては差異ありとは思ふが、結局に於ては一致するとの假定の下に現象論的な相違を認め、本質に於ける一致を確信するといふ立場をとるものである。これを更に詮じつめれば、小學校に於ける歩法に二種あることは如何にも煩鎖である。我々の歩法に二様の形式のあるべき筈はない。即ち正常歩を以て教練に迄推し及すべきだと論及されるのである。

批判的意志は大切である、直觀から來る認識は主觀的である。だからと言つて國家の要求する意圖に背いて迄主觀の妥當は認容し難いのである。私は此の問題に關して、教授指針を研究し、親しく二宮先生、齋藤先生の御指導を仰ぎ、兩先生の意のある所

を付度して本文を草したので、禿筆舞文、或ひは先生の眞意に副ひ兼ねる點があつたら御批正を願ひたいと思ふ。以下申述べることは從つて國家の要求する所と略相近いものであることを確信する次第である。

二

歩及走は現要目に採擇された理由として教授指針には「正しい歩法並に走法の修練をなすと共に、血行を促進し、代謝機能を旺盛にする上に効がある」と述べてある。これは目的であつて理由とはならない。然し以上から付度してみると、體操教材としての重要性如何に其の理由を見出す。

歩及走は通常一時間に於ける體操教授中に於ては四肢軀幹の運動が終了してから行はれてゐる。即ち姿勢を端正にする運動、換言すれば身體練成の運動と次に來るべき應用體操、力の鍛練、巧緻力の訓練を目的とした全身運動への中間ポイントに位置を占めてゐる。これは要するに身體練成運動の總括的意味を物語ると共に、主として下肢筋を用ひる全身運動としての歩及走に依て、次ぎに來るべき強力運動へのスタートたらしめる所に意味がある。これは歩及走の價値をよく生かした排列であると思ふ。齋藤先生は其の價値を次の如く擧げてゐる。

一、歩及走は脚による全身運動であつて、運動量

の點からいつても、生理的効果からいつても、其處までに行はれる如何なる運動よりも優れてゐるからである。殆んど比較にならぬ程すぐれてゐるからである。

二、自然運動であるから、大なる運動量を有するに拘らず割合に疲勞しない。

以上の二理由は基本體操の王たるに十分の資格をなすものである。歩及走それ自身は純粹な基本體操でなく、むしろ應用體操の資格を十分に具へてゐるが故に、基本體操の最後に、其のしめくゝりとして用ひることが最も妥當である譯である。――
前要目が「行進」として此處に掲げ、當初の目的通り實施されず、ともすれば教練のみとなり、體操全般の目的を遂行して行く上に遺憾の點があつたのを、歩及走として行くべき道を明確に示したのは、又我々として一考を要する次第である。歩及走は教練ではない。體操の一教材としての運動である。姿勢を端正ならしめ、容姿を整へる爲の運動である。以上の事實は、やがて來るべき正常歩と速歩との關係を規定する重大なる根據であると申さねばならぬ。

三

隨つて歩及走の教材を通覽するに

各種歩―正常歩―舉股歩―大跨歩―急歩―踏歩(各々走)

となつて居り、教練に於ては

速步行進―足踏―停止―速步行進間轉向―駢足行進―駢足足踏―駢足より停止―駢足行進より速步行進

と發展して、取材の目的觀を異にしてゐることが容易に納得出来るのである。申す迄もなく教練は、

身體を育成し、精神を練磨することに其の趣旨を置き、特に鞏固なる意志を鍛鍊し、規律、協同、服従等の諸徳性を涵養せしめんとするものである。何故拘る教材を選択したかに小學校教練の特質もある譯であるが、教授指針の示す處に従へば、小學校及び女子中等學校の教練教材については、體操、遊戲及び競技等の教授に最も關係の深い材料について、歩兵操典中より選擇したものであると其の原據を明白にし、從つて其の實施に當つては、兒童の心身發育の情況に應じ、その取扱に於て十分に考慮を加へなければならぬ。兒童には兒童らしく、假令同一の教材を取扱ふにしても、下學年と上學年とに於ても、その要求の程度を可成に變へなければならぬ。と詳細を極めて論じてゐる。

更に其の取扱ひの場所及び時間に就ては、小學校では特別に教練の時間を設けないから、體操時間中他の運動と共に極めて短時間に於て行はなければならぬ。而も一人の教師が一組五、六十名の兒童を指導するのであるから、その取扱に關しては、教材の目的並に要求の程度を豫めよく考究して、漸次に無理なく循環漸進の方法により其の程度を進むべきであると示してゐる。

以上申述べた教練としての立場、歩及走としての立場の相違が、内容に於ても、亦取扱ひの時期、方法に於ても明瞭な差異のあることを認識しなければならぬのである。

四

依て私は拘る目的觀の相異なる教練と、體操中に於ける歩及走の二者から、其の内容として包含さるべきものに於て當然異なるコースを歩まねばならぬことを指摘しなければならぬと思ふ。私の立場は速歩と

正常歩とに於ては根本的な相違を見出し、これが精神の上に、外形の上に又差異あるものと斷ずる次第である。此の推斷に關しては尙論究して行かなくてはならない。

先づ第一に正常歩とは如何なる歩法かといふ點である。第二に速歩の歩法如何である。第三に比較對照して何處に相違點を見出すかである。かくして正しき正常歩と速歩に關する認識を把握しなければならぬ。

五

正常歩は自然歩に對する謂である。若し我々の日常生活に於る歩が自然の歩みであるとしたら、その歩法は決して萬人同一のものでなく、其處には幾多の寧ろ畸形的とさへ言つてよい歩法が発見される。足尖の方向でも外向も内向もあり、其の經過に至つては萬別である。更に臂、體の振動を併せ考へると、唯單なる歩き癖にのみ任しきれない事例に遭遇するであらう。正常歩は拘る自然歩をより高次な正常なる歩法に導く爲の勞作である。

暫く教授指針の示す所を調べることにする。正常歩―正常歩とは、歩行者本來の目的を以て行はれる正しい歩き方をいふのである。歩行は現代の人類にとつて最も自然的な運動で、全く生得的な運動であるのであるから、特に練習の必要など無い譯であるか、何分不自然の生活によつて、その歩態は種々歪められてゐるために、特に歩行訓練の必要が生ずる次第である。

さて正しい歩き方、即ち正常歩として、果して如何なる要素が必要であるかといふに、それは、最初踏み出された脚、即ち振動脚の力がよく抜けてゐること、足が最初地面に觸れる際、膝が伸びてゐるこ

と、足尖が概ね歩く方向に向いてゐること、體が眞直に保たれてゐること、臂が肩から自然に振れること等である。

歩幅及び速度は身長、年齢、性其の他に依て異るが概して歩の幅は身長に比例し、速度は年齢に逆比例する。女子は男子に比して歩幅に於て劣り、速度に於て優つてゐる。されど指導に當つては或は速くし緩くすることは差支へないが、極端にならぬやう注意を要する。

六

速歩に關して教授指針は次の如く示してゐる。

速步行進は整正確實なる歩法の練習によつて、威容ある行進姿勢と、勇壯敢爲の精神とを養ふものである。動作は、左股を少しく上げ脚を前に出し、適當の距離に膝を伸ばしながら踏み著け、全く體の重みをこれに移す。左足を踏み著けると同時に右足を地から離し、左脚に就いて示した様に、右脚を前に出して踏み著けて行進し、頭を眞直に保ち、兩臂を自然に振る。

更に指導上の注意として、
學校に於ける速步行進の歩調及び速度は、歩兵操典に規定された標準とは自ら異り、その年齢、發育の程度に應じ歩幅を短縮すると共に、歩數も増加されるのが自然である。

體操中に於ける歩の練習と相俟つて、正しい歩法の要領を會得させるがよい。

行進中體は前後、左右に搖れることなく腰、背、頸はよく伸ばされ、威容ある行進姿勢を保持させるやうにする。等々

と示されてゐることは、我々のよく熟讀玩味する必要がある文字である。

七

前述に於て、又要目の排列に於て、歩及走の一單元中に於ける位置は明白であるが、教練の行ふ場所は必ずしも明白であるとは言ひ得ない。あの要目の排列は體操としての排列であるからである。

時間の初めの秩序運動として行ふことも一法であらう。然しこれは何處迄も簡單にして、運動量の少いものでなければならぬ。さうして實施して行くとき、とても要求されてゐる如くやりとけることは至難事である。此處で高學年に於ては教練を中心教材としての特別な扱ひをしなければならないことになる。一週三時間を、體操、教練、遊戯競技とする。體操教材がやり切れない。教練中心の扱ひは結局一月に二時乃至一時になるかも知れないが拘る特殊時間を設けて實施するのが實際運行上に簡便で、能率化される。

八

これ等の特質を比較對照して我々の進路を決定しなければならぬ。

(1) 目的の相違

正常歩の目的は正しい自然歩を作り上げることに依つて、生理的に好影響を與へ、健康生活に價值あるしめることであるが、速歩行進は、整正確實に歩くことを練習することに依て、威容ある行進姿勢と、勇壯果敢なる精神を養はんとするにある。

整正確實に歩くといふことは、全體が一齊に揃つて、しっかりと大地を踏みつけて歩くことで、正しい歩法とは稍其の趣を異にしてゐるのである。

即ち其の差異は齋藤先生に依れば、
(イ) 正常歩は先づ個人の歩法を正しくしやうとしてゐるが、速歩行進は全體が一致するといふこ

とを目標としてゐる。

(ロ) 正常歩は生理的價値に重點を置き、速歩行進は精神的價値に重點を置く。

(ハ) 即ち一方は體操であり、一方は教練である。拘る相違は屢次申述べた如く、其の本質に基因する處のものである。

(2) 歩法の相違

正常歩は自然歩の正しさを目標としてゐるから、振り出された足は力がよく抜けてゐることが必要である。踵から足裏へと軟く踏つけられてゐる。

速歩は壯重さ、嚴肅さを目標としてゐるから、振り出した足は股を少しく上げ脚を前に出し、踏みつけは稍強く膝を伸ばして行ふ。

(3) 行ふ意味と場所の相違

これは既に詳述した通りである。

九

此處に於て我々の進むべき方途は些か明白となつたと思ふ。即ち兩者は根本的相違が存在してゐるのである。例へば軍隊に於ける路上行進の歩法と、儀禮的行進の歩法の如く、平常の衣類と、暗の衣類の如く、兩者の共に存在することに依て用を足し得るのである。學校體育に於ても決して其の一方にのみ偏すべきでなく、兩者兼ね備へて全きを期し得るのである。

これに依て往々二様の歩法の存在することに依る不都合を論難される根據も、打破し得たと思ふ。實際指導の上に於て二種の歩法及存在は實に煩雜かの如く考へられるか、要求點の相違と、我々の生活様式からの歸結であるから以上の如く扱ふことが至當であると確信する。

次に實際指導に當つての留意點を申述べる。號

尋一終了時に於ける書字力についての調査

神女師附屬・低學年教育研究部

1、文字教育の問題

國語教育に關する書物は非常に多い。そしてそれ等の多くが、流行學說なら何でも取つて看板に使ひ、流行語は残らず利用して、さまざまの國語教育説を掲げ、色とりどりに、その姿を競ふ有様は、全く「お花畑」を思はせるものがある。

だが、その「お花畑」は高い山の上のもので、教師はついに花を漁つて疲れ、子供には大した結實も見られず、雲の上の高遠な哲理に酔ふ教師や、神秘的形象の世界に遊び得る子供が幾人かは有るとしても、他の大部分のものはどうであらうか。現實がはつきり示してゐる。

國語教育の本當の役目は、「生活のために言葉について訓練することである。子供が、國民が、言葉を助けとして自分たちに必要なことを理解し、また表現し、他人と交渉し、關係を結び、言葉の支配者となつて、生活を高め、文化を發展させる様にするための、言語生活についての基礎的訓練である。

だから、文字の關所でマゴツいたら、それこそマイナスの國語教育である。此の間「カナモジカイ」で高等小學卒業生が銀座街の看板にある漢字五十字をどれ位讀めるかと、四二五名について試験して見た。

その結果のくはしい統計は、まだ見ないが「裁縫」と「洋裁」の二つは九六パーセントも讀めたが、「飾」になると僅卅名の七パーセントしかわからず「筆笥店」は五人きりの一パーセントであつたとの事である。もう一つ此處に面白い調査が、東京市視學の岡崎常太郎氏により行はれてゐる。それは全國の著名な中等學校百校に對して、次のやうな二十字の字體を示して「もし御校の入學試験で、此の通りの字體が漢字書取の答案としてだされたら、いかなる採點をなさるか。」との問ひ合せに對して回答をよせた六十三校の結果は次のやうであつた。

偷▲62	▲1	▲39	▲24	▲50	▲13	▲38	▲25	▲54	▲9
增▲57	▲6	▲63	▲0	▲48	▲5	▲53	▲10	▲57	▲6
助▲39	▲24	▲56	▲7	▲2	▲61	▲3	▲60	▲56	▲7
盜▲52	▲11	▲9	▲54	▲9	▲54	▲1	▲62	▲2	▲61

このうち、上の三段の十字の字體は、小學國語讀本に於て採用してゐるものである。これらの如き、極く僅かの一例によつても我が國字、或は將來の文字教育について相當の問題のあることが暗示されてゐることに氣づかずには居ないであらう。宜、なるかな！

この様な我が國語、國字、文字教育に就いては既に各方面に於て研究され、此の問題をめぐつての世の動きは相當活潑になつて來てゐる。即ち主なるものだけを擧げて政府の施設では、臨時國語調査會、國語審議會など、半官的とも言へる國語協會、國語愛護同盟など注目し値するものである。民間では「カナモジカイ」などが各方面に力強く調査研究を行つてゐる。

新刊紹介

南洲翁逸話

鹿兒島縣教育會編

クロース綴四六版 四二八頁
定價一圓五十錢 送料十五錢

鹿兒島市山下町一番地

鹿兒島縣教育會

振替帳本四七〇〇番

ニュース

世界教育會議東京大會

世界教育史上に大きな足跡を印すべき第七回世界教育會議は我が帝都に於て愈々八月二日より東京帝國大學構内會場に於て開催された。茲には全貌を詳細に描くだけの紙面を持たぬから(それはいづれ後日にゆづつて)極く横顔だけのぞいてみよう。

◎世界教育會議とは?—世界聯合教育會が主催する會議で、その本部はアメリカのワシントンにあり、現會長(アメリカ)ポール・モンロー博士、副會長(日本)永田秀次郎氏)世界各國の代表的な教育會、教育團體及教育に關係ある團體を會員とする會。現在は正會員と准會員とを併せて約百五十の團體會員によつて組織されてゐる。我が日本からは帝國教育會唯一つがその正會員になつてゐるのみ。

◎會の目的は—(一)世界の教育及教授の進歩發達を圖り(二)各國の教育團體間の協力を一層密接ならしめ、(三)國際的善意を涵養すること。

◎事業、會議の場所、時期は—最も主なる事業が、世界教育會議の開催、そして、之は隔年に一回開かれる。

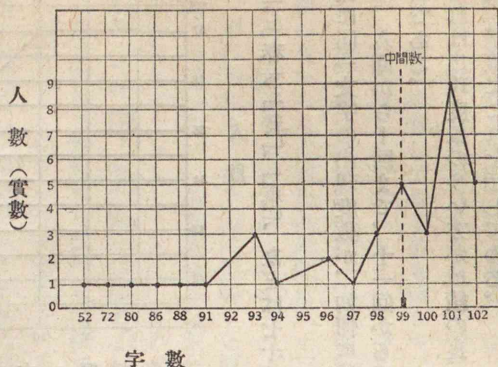
創立總會 一九二三年 アメリカのサンフランシスコ
第一回 一九二五年 スコットランドのエジンバラ
第二回 一九二七年 カナダのトロント
第三回 一九二九年 スイスのジュネーブ
第四回 一九三一年 アメリカのデンバー
第五回 一九三三年 アイルランドのダブリン
第六回 一九三五年 イングランドのオックスフォード
第七回 一九三七年 日本の東京
となつたわけ。

◎東京會議

一、期日—八月一日から八月七日まで

一、參加者—外國から約千名、國內約二千名、計約三千名、外國人中大部分はアメリカではあるが英、獨、伊、オース

第一表 全員の成績分布



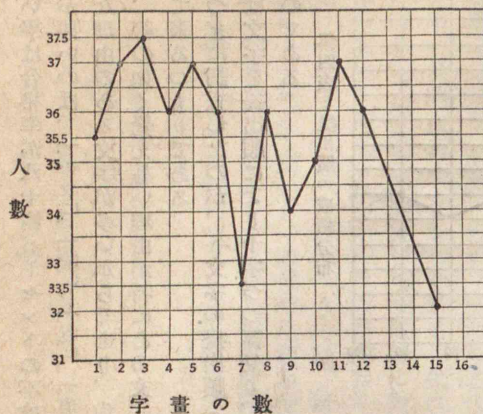
の平均は九九字といふことになる。
次に各文字につきて、合格者数をパーセントに算出して、成績を文字別に観察したのが、第二表である。

第二表 合格者、%別の各文字

- 一〇〇% (二十五字)
二、三、山、川、大、ツ、八、十、四、五、六、七、九、ツ、日、森、雨、出、セ、出、タ、大、ソ、ウ、水、外、右、大、ジ、口、土、火
- 九七% (二十一字)
四、小、サ、イ、六、七、九、二、ツ、八、ツ、目、上、月、光、天、早、下、方、寺、子、花、玉、雪、正
- 九四、七% (十六字)
一、木、村、青、空、郎、泣、宮、前、來、タ、風、左、竹、米、生、石

- 九二% (十二字)
一、ツ、五、三、ツ、中、犬、太、手、生、レ、正、時、立、時、牛
- 八九% (十二字)
十、人、入、所、雲、月、耳、少、戸、白、春、長

第三表 畫數別の成績分布



斯くの如く、文字によつて成績が非常に違ふのは、何に原因するかを調査しなければならない。そこで、第一に字畫數の差が、どの程度に成績に影響するかを見るために、字畫數毎に文字を分類し、各分類中に於ける合格者數の平均(中間數)をしらべたのが第三表である。
これによると、凹凸が相當に激しいが、これは矢張り、調査資料の少ないのと、もう一つは成績が字畫數のみによつて一義的には、きまらないからである。然し大體に於て畫數の多くなるにつれて成績が悪くなると言へる。即ち一番畫數の

特別論題	日本ノ教師ノ性格	長田 新
印刷物	舊時日本ニ於ケル普通教育ノ教師	乙竹 岩
印刷物	日本ニ於ケル女教員ノ養成	木村 ふみ
印刷物	我國師範教育概況	日田 權一
一般論題	映畫教育ヲ通ジテノ國際親善ノ助成	土屋 隼
特別論題	日本映畫教育概況	西脇 乃夫彦
印刷物	レコード教育ノ沿革及現状	西脇 乃夫彦
印刷物	教育映畫目錄及教育レコード目錄	中山 龍次
一般論題	日本ニ於ケル教育放送	小尾 範治
特別論題	現代教育ニ於ケル教育放送ノ地位	西本 三十二
特別論題	日本ニ於ケル學校放送ノ特色	野口 彰
特別論題	本校ニ於ケル學校放送ノ利用	青木 誠四郎
特別論題	ラヂオ心理學ノ研究	清水 順治
特別論題	日本ニ於ケルラヂオ體操	市川 源三
特別論題	中等教育部	西村 房太郎
特別論題	一航論題	小林 澄兄
特別論題	小學校ニ於ケル圖書手工及裁縫	龍山 義亮
特別論題	都會及農村ニ於ケル初等教育	田島 晋次郎
特別論題	珠算(實演付)	佐々木 秀一
特別論題	道德教育	

る。その他、一般社會的にも大新聞、文化雜誌、教育界等に於て相當に關心を持つて居る。是等の仕事の内容は國語、國字の全般に亘るものであるが、直接文字教育に關する方面では、小學校卒業生の書字力を調査したり、或は社會的にどんな字が必要であるかを、新聞に出る漢字の度數や、議會の速記録や、あらゆる方面の代表者を選んでもらつたりして現代生活に最も必要な「書く文字」と「読む文字」とを調査したりして文字教育の改善、新方針の樹立に對する基礎的調査が行はれてゐる。今、此處ではかかる問題につき詳しく論ずる事を目的としてゐるのでは無いから、以上文字教育に關する我が國現時の極く大體の状況を述べて、「第一終了時に於ける書字力についての調査」のまへがきとした。

2、此の調査について

現在の國民として必要な読み書きが出来る所まで子供を育てあげるのが義務教育に於ける「文字教育の方針」でなければならぬ。そこで第一の讀本に出て来る漢字は讀むことは勿論、書く事も社會的必要度の最も高いものである(既に述べた如き種々の方法で選定した漢字五〇〇の中に、は入らぬものは、泣、吹、耳、森、の四字だけである。)のだが、是等の文字が第一の一年間にどの程度に徹底するものか、書字力の成績に影響するものは如何なるものか等を調査し、文字教育の新しい方針樹立の基礎とする事が目的の一つなのである。然しこれには第一の學年だけでは不十分であつて少くとも義務教育終了までの各學年に亘りて調査し、その書字力の程度、發達、及び、これに影響する事項等を究め、小學校に於ける大半の兒童の能力に堪へ得る字數はどの位か、即ち現行の一三五六字の適否、それからそれ等と現代社會に於ける必要度の高い文字との關係等を、調査して見なければならぬのである。

次に目的の第二とする所は、直接學級經營の上にある。即ち學級集團、及び各個人の難易度、誤謬傾向弱點の原因を調査し、教科經營上の指導要點を反省し、以て科學的教科運營をなさうとする診斷、治療としての仕事である。

以上のもとに、第一終了後、學年末の休業を二週間なし、第二の新学期開始の第一日に、卷一、卷二に提出されてゐる新出漢字、八十二字、讀替文字、二十字、合計百二字を、教科書に提出されたる順序に隨ひ、片假名で示し、意味を取違へる様な處のあるものは、適當に前後に言葉を附加して提出した。問題につきては一切、説明や、讀んで聽かせる等をせず、自ら讀み、自ら書かして丁度一時間を経費して行つた。それがため、不注意、感違ひ、等の原因から知つてゐる字でありながら誤記した様なものも相當にあつた。

此のやうにして調査した結果、全員の成績を分布表にしたものが第一表である。これによつて見ると、分布の範圍が相當に廣く、且つ凹凸が多い。これは少ない資料についての調査であることが主なる原因であらう。此の成績を算術平均で出してみると九六字になつてゐるが、個人差がはげしいので、これを以て代表平均とすることは、このまじくない。そこで、中間數を出して見ると書字力

トリー、オーストラリア、ベルギー、カナダ、セイロン、チリ、ギリシャ、ハワイ、ホンコン、ハンガリー、滿洲國、其の他全く地球上の隅から隅まで網羅するわけ。

一、會場 東京帝國大學

一、日程

七月三十一日(土) 代表者歓迎
八月一日(日) 招待

明治神宮參拜

八月二日(月) 第一總會 部會 招待

八月三日(火) 部會 招待

八月四日(水) 第二總會 部會 招待

八月五日(木) 部會 招待

八月六日(金) 部會 招待

八月七日(土) 第三總會 部會 招待

一、部會——會議は總會と部會とに分れ、部會は年によつて相違がある。大體十八—二十位が開かれる、東京會議では左の十八である。

- 1、地理教育部
- 2、成人教育部
- 3、放送教育部
- 4、映畫教育部
- 5、教員養成部
- 6、學校衛生部
- 7、工藝教育部
- 8、農業教育部
- 9、就職前及幼稚園部
- 10、家庭及學校部
- 11、中等教育部
- 12、教育法規部
- 13、大學及專門學校部
- 14、初等教育部
- 15、教員會部
- 16、商業教育部
- 17、理科教育部
- 18、委員會部

各部會には委員長及書記が任命されてゐる。日本側から委員長を出すことになつたのは、地理、成人、映畫、商業、理科の五部である。我が國側の發表になる三・五の問題について拔萃してみよう。

○教員養成部

一般論題

教員ノ養成、秩序アル經驗ノ必要

風	來ル	雲	私	所	生レ	來タ	花	入	前	外	子	寺	宮	方	水	▲大 ソウ	泣	手	下	▲出 タ	出セ	早	字 文
65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	順出提
9	8	12	7	8	5	8	8	2	8	5	3	6	10	4	4	3	8	4	3	5	5	6	數割字
9	2	6	9	7	1	13	15	2	4	4	8	1	1	4	2	12	3	3	1	6	6	13	數度現出
36	33	34	32	34	35	36	37	34	36	38	37	37	36	37	38	38	36	35	37	38	38	37	數者格合
94.9	87	89	84	89	92	94.7	97	89	94.7	100	97	79	94.7	97	100	100	94.7	92	97	100	100	97	%者格合
點、畫……不正確 (重)	九	點、畫……不正確 (云)	松、私、扁……不正確	所	半	木	觀念不明	人	觀念不明		觀念不明	觀念不明	觀念不明	觀念不明			注……不正確	手……此の数三本 ↓……不正確	寸			早	誤謬の要點

米	松	土	白	▲小	雪	玉	先	戸	少	竹	耳	口	左	▲大 ジ	立	赤	見	時	右	▲來 イ	▲月	正	字 文
88	87	86	86	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	順出提
6	8	3	5	3	11	5	6	4	4	6	6	3	5	3	5	7	7	10	5	8	4	5	數割字
2	3	2	3	1	5	1	1	1	1	1	1	4	2	2	1	1	10	5	4	4	5	5	數度現出
36	33	38	34	33	37	37	31	34	34	36	34	38	36	38	35	33	33	35	38	27	34	35	數者格合
94.7	87	100	89	87	97	97	82	94.7	94.7	94.7	89	100	94.7	100	92	87	87	92	100	71	89	62	%者格合
米	禾		觀念不明	子	觀念不明	正	生……ここまで不正確	戸	小	觀念不明	耳……不正確		觀念不明		太	土……これが不正確	見、几……不正確	寺		子、小	觀念不明「學」	正	誤謬の要點

石	牛	車	長	▲正 マサ	音	生	年	春	校	學	▲時 ジ	吸	火	字 文
102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	70	89	順出提
5	4	7	8	5	9	5	6	9	10	15	10	7	4	數割字
1	3	5	1	1	2	1	1	2	2	2	1	1	1	數度現出
36	35	32	34	37	32	36	32	34	30	32	35	32	38	數者格合
94.7	92	84	89	97	84	94.7	84	89	79	84	92	84	100	%者格合
觀念不明	生、午	東、車、青……	又……これが不正確	觀念不明	觀念不明	生	年		交……これが不正確	馬……ここまで不正確	觀念不明	短、欠		誤謬の要點

◆備考

○新出文字八十二字

○讀替文字二十字(▲印)

○書字力平均九十九字

○「觀念不明」とは全然不能なりし文字であつて、字數は相當あるが、人數は成績の極く悪い一、二の兒童が主である。

●備考
○新出文字八十二字
○讀替文字二十字(▲印)
○書字力平均九十九字
○「觀念不明」とは全然不能なりし文字であつて、字數は相當あるが、人數は成績の極く悪い一、二の兒童が主である。

とは、あまり使はない字を一〇〇語込むことより意義がある。特に目下文部省は、小學校の漢字を増し新聞の漢字を減じて釣合を取り、書く字は七〇〇程度にさげる調査を進めてゐるか。因に各種の調査の結果、漢字一千字にしても現在の九十二パーセントまで用が足り、假りに五百字だけを取つても七十七パーセントまで用が足りると言ふ。

(2) 出来るだけ、讀み物や、適當な新聞、雜誌を讀ませる。さうすると、社會的に價値の多い字ほど度々ふれる機會がある。また文の中で、具體的な使用方として覺える。更に必要度の高い文字のみで、書いた面白い子供の讀物などが出来る事が、のぞましい。

(3) 文字の單一化、簡單な字畫の字、略字等も將來の文字教育の上に考究すべき重要な問題である。現在讀本に略字が添書してあるのが二十二字ある。

「休」、「糸」、「号」、「虫」、「蚤」、「万」、「刃」、「点」、「関」、「画」、「円」、「旧」、「乱」、「鉄」、「礼」、「室」、「廉」、「弘」、「属」、「尽」、「処」、「与」、がそれである。

然し、兒童はこれ等のうちの、ごく一部分だけで他はあまり使つてゐない、これは學習能率の上からも重要である。文部省國語調査會は、大正十四年に略字一五四字を發表してゐる。

(4) 直接には此の調査の結果による兒童の誤謬内容に充分注意し、その原因に對し、對症療法を講じそれ等の文字につき、第二回、第三回とテストを行ひ、充分徹底せしむることである。

以上、未だ、極めて不十分のものであるが、此の問題は、單に小學校の文字教育のみでなく、國語の改善、日本文化の發展の問題である。

▲六ッ	▲五ッ	▲四ッ	▲三ッ	▲二ッ	▲一ッ	十	九	八	七	六	大ッ	五	木	小サイ	川	山	四	三	二	一	字 文
21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	順出提
4	4	5	3	2	1	2	2	2	2	4	3	4	4	3	3	3	5	3	2	1	數割字
1	1	1	2	3	5	7	1	3	3	2	23	3	20	4	5	12	4	9	7	20	數度現出
38	38	38	35	37	35	38	37	38	37	37	38	35	36	37	38	38	37	38	38	36	數者格合
100	100	100	92	97	92	100	97	100	97	97	100	92	94.7	97	100	100	97	100	100	94.7	%者格合
			水	觀念不明	人ッ		觀念不明		觀念不明	觀念不明		子	觀念不明	水			吊			小(チイ)	誤謬の要點

秋	雨	天	郎	太	空	森	光	月	青	村	人	上	犬	中	目	日	ヒ	▲十 トラ	▲九 ッ	▲八 ッ	▲七 ッ	字 文
42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	順出提	
9	8	4	9	4	8	12	6	4	8	7	2	3	4	4	5	4	2	2	2	2	數割字	
1	7	4	7	7	3	2	1	6	5	2	9	3	17	10	5	12	1	1	1	1	數度現出	
33	38	37	36	35	36	38	37	37	36	36	34	37	35	35	27	38	34	38	37	38	數者格合	
87	100	97	94.7	92	94.7	100	97	97	94.7	94.7	89	97	92	92	97	100	89	100	97	100	%者格合	
秋		大	良 ……不正確	大	空		光	觀念不明	主……これが不正確	抹	入	土	犬、太、大	長	日		戸		觀念不明		誤謬の要點	

小學國語讀本卷一、二に現れたる漢字の書字力調査 (昭和十二年四月)

合科教授の實際

神奈川縣師範學校訓導

淺 葉 幸 藏

はじめに

我々教育界に於ては「學問より生活へ」の實踐的モットーは既に遠く過ぎ去つた。明日の指導規範は「生活より學問へ」である。徒な抽象的觀念的知識の傳達のみに終始する作業は教育の邪道である。明日の教育は、凡て現實的な具體的な全體性的兒童自らの生活地盤に魂を賦與することを主眼とせねばならぬ。

斯かる見地より、現代教育實際界に於ては種々相に改造進歩發展を遂げつゝある。合科教育の如きは其の主眼である。

長田新教授は次の如く云ふ。「惟ふに現代教育に於ける教科組織は、要素としての既成の専門諸學を上から下へと運んで組立てられた原子論的集積以外の何物でもない。我々の意識の構造の具體的全體性を思へば、原子論的集積としての機械的な現代の教科組織は打破されなければならない。而もその打破の道は、凡ての教科をば一個の具體的な生きた未分化の實在が彼等凡てを編み込んでゐる關聯乃至作用交換の中に安住させる事である。特に低學年教育に於ける教科組織は、兒童意識の生ける具體性全體性に適應して、根本的に改造されなければならない……」云々と。

教授は、陶冶財組織改編の問題より「生活より學問へ」の理を明にし教育實踐に合科教育を暗示したのである。

昨今低學年教育に於ては合科教育は教育上の通念たる感がある。而して實踐的にも各所に其の効果を擧げつゝあるやうだ。今これ等を詳に靜觀するに大體に於て類型を二つにする事が出来る。

その一は教材の連絡結合といふ見地であり、他の一つは兒童生活の未分科といふ觀點からである。前者はその背後に陶冶材の有機的な構造關聯の理論が伏在し、後者は、兒童生活の全體觀の理論が承認されてゐるのである。

我々に於ては是等類型の持つ特質を長伸補短し本年四月より尋常一年男女學級に合科教育を實施したのである。本稿に於ては、其の理論的根據を他日に譲り其の實際を展べることに由つて本校合科教育の意のある所を御覽察願ひ御叱正を乞ひたいと思ふのである。

合科教育の實際

本稿は、本校職員研究施設職員研究授業に於て實踐したものである。先づ教案を擧げ紙面の許す限りに於て學習展開の狀況を述べて見たいと思ふ。

(イ) 教 案

- 一、指導者 訓導 淺葉幸藏
- 一、學 年 尋常一年男組(四十六名)
- 一、日 時 自七月六日至七月十日
- 一、題 目 箱庭作り
- 一、目的 兒童の生活に入つてゐると信ずる「箱庭作り」を勞作し、同題目に必然關聯される後述の諸教科に含まれた陶冶目的を達成し兒童生活を向上させたい。

一、取題の理由

A、兒童生活上より

1、箱庭作りが兒童の生活に入つてゐると推定したること

(イ) 教師の體驗上より推定

(ロ) 廣く兒童生活觀察上より推定

(ハ) 受持兒童生活調査上より推定

2、季節上より

土いぢり、水いぢり、戸外生活が本期の兒童には季節的に要求される。

3、陶冶目的上より

同題目は、後述の如く諸教科と關聯し國家意志達成の爲には好適と思ふ。

二、題目より必然に要求關聯される教科

A、修身 協同、創作に當つての心身一如、物我一體、工夫、綿密、人との交渉、生物に對する心情、規律、整頓等の精神的態度……以上は卷一「四友達」「五喧嘩をするな」「六元氣よく」「八始末よく」「九生きもの」「十一きまりよく」「十二物を大事に」「十五人の物」「十八人に迷惑をかけるな」等に關聯する。

B、國語 讀本教材「マサチャン」兄弟の箱庭作りを讀解することにより、本教材に内含される陶冶價值「創作の喜び、生活動向の品位、仕事の計畫、仕事遂行上の順序、協同作業、仕事の反省、自然美愛好の心情、文化的價值的活動自然現象の觀察」は同題目により陶冶される。

C、算術 箱庭の部分品(人形、橋、ポスト、道しるべ、富士山等)購買學習は數生活をさせるD、地理 山、川、橋の作製より地勢の具體的指導が出来る。

兒童用意(木草石水コケ等)

(ホ) 箱庭部分品は紙錢に依つて購買する事

(ヘ) 役割、仕事の順序は各グループにて相談すること。

5、設計(箱庭の思想畫)

6、紙錢作製(一錢、五錢、十錢)

第三 單元指導

一、日時 七月八日

二、場所 尋一男教室及野口氏山

三、本時のねらひ所

箱庭作りの爲に必要な材料集覽

四、環境整理、救急藥品採集用具スコップ、名札

五、學習進行

1、設計圖に基づき自由話し合ひ

2、採集についての指導(該場所に於ては個人指導)

(イ) 石の採集(運動場)：形大きさ

(ロ) 木草コケの採集(野口氏山)：野口氏の好意

形、大きさ、むだにせぬこと、根について危険物に就いて、保管について：以上は教室學習

習

3、採集作業

(イ) 石の採集と保管：運動場に於て

(ロ) 木草等の採集と保管：野口氏山に於て

4、反省と次時への聯絡

第四 單元指導

一、日時 七月九日 第一、二校時

二、場所 新設バレーコート(雨天の場合は雨天體操場)

三、本時のねらひ所

箱庭の作製

- E、理科 植樹、コケ付、植物の採集は理科的陶冶が出来る。
- F、圖畫 製作設計(箱庭の思想畫) 完成品のスケッチは圖畫と聯絡
- G、體操 作業、植物採集の爲山野跋涉は體操と聯絡
- H、手工 仕事に對する計劃順序工夫技術造形美等は手工と聯絡する。
- 一、題目學習單元
- 目的……第一單元(四十分) 教師作製の箱庭展覽より自由話し合ひに入り生活動向を統一し進んで讀本教科書取扱ひにより「マサチャンハコニハワツクリマセウ」の製作欲を湧出せしむ。
- 第二單元(八十分) 製作計劃(計劃參考の爲再び讀本教材を取扱ひ仕事の順序協同作業等を明にする)。
- 第三單元(二百四十分) 計劃に基づき材料集覽
- 實現……第四單元(八十分) 箱庭製作
- 反省……第五單元(八十分) 製作物讀本教材により生活反省批評鑑賞
- 第一 單元指導
- 一、日時 七月六日第一校時
- 二、場所 尋一男教室
- 三、本時のねらひ所
- 1、生活動向の統一
- 2、讀本教材取扱ひより製作意欲の湧出
- 四、環境整理教師製作箱庭、掛圖、讀本
- 五、學習進行

- 1、箱庭展覽(教師製作品)
- 2、自由話し合ひ
- 3、讀本教材取扱ひ
- (イ) 全文讀特に「マサ セウ、山、川、小、木
- 五、ホホウ」の指導
- (ロ)「ソレハ山デスネ」の質問法指導に出發し川、木、コケ……等より箱庭の具體化
- (ハ) 完成の喜び特に「ホホウヨクデキタネ」の指導
- 4、自由話し合ひより次時への聯絡
- 第二 單元指導
- 一、日時 七月七日 第一、二校時
- 二、場所 尋一男教室
- 三、本時のねらひ所
- 讀本教材取扱ひより計劃の決定
- 四、環境整理、箱庭、掛圖、讀本、紙錢、印刷紙、
- 紙、のり、畫用紙、クレヨン
- 五、學習進行
- 1、自由話し合ひ(前時との聯絡)
- 2、計劃についての自由話し合ひ
- 3、讀本教材取扱ひ
- (イ) 全文讀特に新字の指導
- (ロ) 山デスネ、とデキタネ、の「ネ」の指導
- (ハ) 再び箱庭の具象化
- (ニ) 仕事の順序と役割
- 4、計劃決定
- (イ) 協同製作が適當なること
- (ロ) 構想は自由なること
- (ハ) 製作場所は新設バレーコートなること
- (ニ) 材料 教師用意(箱、土、スコップ、箱庭部分品)

四、環境整理、賣店、紙銭、採集物、箱、土、スコップ、箱庭（教師作製品）掛圖、讀本、黑板、作業服、思想畫

五、學習進行

1、作業開始前の指導

- (イ) 製作目的の自覚（思想畫により）
- (ロ) 各自座を占めること
- (ハ) 協同すること
- (ニ) 静かな作業
- (ホ) 計劃についての再考究
- (ヘ) 部分品購入についての指導
- (ト) 難點の豫想
- (チ) 技術について

2、作業

A、創作順序（順序は自由なるも大體次の順が自然と思ふ）

- (イ) 土入れ（ロ）全體の素作（ハ）部分作製（ニ）必要品の購入（ホ）全體の結合（完成）
- B、創作眼目
 - (イ) 全我の集中（心身一如）
 - (ロ) 協同精神
 - (ハ) 想内容と表現形式の一致（物品一如）
 - (ニ) 聯絡教科の徹底
 - (ホ) 表現手法の會得

3、作業後の仕事

- (イ) 完成物陳列展覽より淺い批評鑑賞
- (ロ) 作業狀態について教師所感
- (ハ) 次時への聯絡と器具作品の處理

第五 單元指導

一、日時 七月十日 第一、二校時

二、場所 第一男教室

三、本時のねらい

製作物讀本教材より生活反省批評鑑賞

四、環境整理 兒童作品、クレヨン、畫用紙

五、讀本教科書

1、作品展覽と自由話し合ひ

- 2、自己批評による修正
- 3、共同批評による修正
- 4、再展覽と鑑賞
- 5、讀本教科書取扱ひ

(イ) 新字の徹底、(ロ) 仕事の順序についての反省、(ハ) 創作の喜びについて、(ニ) 生活動向上の品位について

6、自作品スケッチ

7、作品保管及一般展覽についての計畫指導

8、一般展覽への準備

(イ) 廊下展覽場への移動（作品）

(ロ) 家庭への傳言

備考 指導者として特に批評願ひたい點

- 1、生活單元として取題したこの題目がはたして適當であつたか否か
- 2、陶冶目的が高過ぎたか低過ぎたか
- 3、陶冶材料に脱落がありはせぬか
- 4、協同製作が此の期の兒童にむりかどうか
- 5、教授技術上の缺陷及び教材認識上の誤
- 6、兒童學習上の共通缺陷 以上

(ロ) 學習の實際

各單元における學習状況を記述したのであるが紙面の都合上許されない、そこで第四單元の學習展開の概要を述べ御参考に供したい。（教案参照）

環境整理

自由に開放された戶外新設バレーコートに本單元の教室に當てた。周圍には緑樹茂り連日の暑熱もこぼれはかりは無熱帯の感がある。

ほこり鎮めの散水と折柄の涼風に一入鮮新な氣が湧出する。

湧出する。

作業開始前の指導

(イ) 製作目的の自覚

賣店前に集合させ各自製作の思想畫（設計畫）を示し話し合ふ。

○今日はいよいよお待ちかねの箱庭を作る事になりました。一昨日失敗しないやうに繪を書いて頂きましたが今日はもう一度よく見ませう。各自の設計畫觀察

○一枚を提示しこれは大變よく出来てゐて先生は感心しました。これならばきつと上手に出来ると思ふがどの點がよいかわかりますか。山がよい、川がよい木の植所がよい、全體がよい、きれいに書いてあるから等の答が出る。

○皆の答は全部よい。では自分達のもよく見なほしてごらん。そして作る時には注意しなさいよ。

(ロ) 計劃に就いての再考究

○それではいよいよ作つて頂くがどんな順序でやつたらよいか考へて頂きます。答へる者あり、讀本を開くものあり。

○ではもう一度讀本で調べませう。早川君讀んで朗讀

○さあわかつたでせう。先生が黑板に書くからいつてごらん。順序を板書する（略）

○讀本のおしまひの方に「ホウウヨクデキタネ」とあるがどうしてこんなにほめられる様によく出来たのであらうか考へて見ませう。順序よくやつたから、靜にやつたから、手工が上手だから、よい子供だから、丁寧にやつたから、兄弟で一諸になつてやつたから等の答が活潑に出る。

(ハ) 協同作業について

○皆よい答です、その通りすれば皆様のマサチヤン等に負けぬ程よいのが出来ます。今兄弟が一緒にやつたからといふ答がありますがこれはよい答です。今日は三人が一緒にやつてやることになつてゐるがマサチヤン兄弟の様に仲よく力を合

てやつて下さい。仲よく力を合せてやればよいといふ事について面白いお話があるから一寸してあげよう。ここで外國人と日本人が角力をつたが日本人は皆負けた、しかし綱引をしたら日本人が勝つたそれは協同してやつたからだといふ話をする。

(ニ) 購入について



箱庭づくり

部分品の値段、購入の仕方等について具體的に指導、質問する者多し。

作業

各自指定の座を占め愈々作業開始、木影渡る日の光りに純白の作業服は緑を映す。三人役割について協議中

(イ) 土入れ 桃の空箱をかへて土入れ作業開始一杯入れて一人で持てず三人よち／＼協同運搬

(ロ) 全體の素作 どし／＼進む組あり中には三人意見衝突解決を先生に仰ぐ組あり、教師は設計圖により補説により解決する。

(ハ) 部分品の購入 いよいよ賣店は開かれた。教師は番頭さん兒童は顧客である。

「今日は頂戴」ハイ今日は、何をさし上げますか「この橋はいくらですか」「これは三錢です」「この富士山は」「こちらは四錢です」「では橋と富士山をください」「ハイありがたうでは二つでいくら頂戴することになりますかしら」「三錢と四錢で七錢です。では五錢と二錢で七錢置いていきますようなら」

これ等は上上の者、買ふには買つたが計算が出来ず指を折つたり計數器をいぢつたり汗かく者ありでも賣店が一番繁昌、教室における抽象數の扱ひならこんな面當な計算はとつくにあきるに汗をかき四苦八苦しな買ふこと買ふことお錢は全部自作の紙錢なる心配はない。

(ニ) 部分作製 此の間一方に於ては全體の素作より部分作製に移る。全我を集中し物心一如となつてゐる可憐な製作師折柄ミンミン蟬が聲高らかに奏樂し始めた。

「先生池の水がたまりません。」「先生コケがよくつきません」「先生石のなれば方はこれでよいですか」「これ等は既に完成への叫びである。」「教師賣店に教師指導に汗だく」。

(ホ) 全體の結合 「先生出来ました。」「やゝきれいに出来た。先生きれいでせう。」「僕達の方がきれいだぞ。」「完成の喜びから比較である。比較は批評鑑賞の一步である。自然の中に教育作業は運行される。教師百尺竿頭第一歩の指導

作業後の指導

(イ) 製作量の配列と批評鑑賞 製作完成順にコの字型に配列させ小さな藝術家をとりまかせ批評鑑賞。

「これはきれいだ、先生この山が上手だね」「この川は割合に大きすぎますね」「コケのつけ方が上手

だ、僕等はコケでは負けた」「繪よりもきれいだね。これ先生お母さまにも見せてあげたいね」「僕等は粘土のはりつけ方がほねだつた」

批評あり、鑑賞あり、明日の仕事への發展あり、それからそれへと話がつきぬ。誰か口笛を吹く者あり、無作法とはいへない。緊張後の喜び完成後の喜びだ「ホウウヨクデキタネ」の絶賛を彼等は心より快悦してゐるのだ。私は此の様子を見て徒らな消徳

完成のころ



的所感止めていつまでも彼等の話し合ひに耳かたむけ心ひそかに今日の仕事に感謝しつつあつた。折柄第二時終了の振鈴が校庭の隅々まで鳴りひびく。

辻村先生の

「地圖雜感」を讀みて

小田原中學校教諭 井 出 榮 二

雜誌「地理學」の第五卷第八號(昭和十二年八月)の開卷第一頁に、辻村太郎先生の「地圖雜感」と題する一文がある。別段四角張つた論文ではなく、標題の如く地圖に對する先生の雜感を述べられたもので、謂はば地理學的隨筆とも稱すべきであらう。

一般に辻村先生のお書になるものは著書にしても雜誌の論文にしても、非常に高尚に過ぎて普通の地理研究徒たる我々には頗る難解で、例へば遙か雲表に聳える高山を遠く望見するやうな感がある。然るに今回の此の隨筆は今までかつて味つたことのない程親しみ深い心持を以て讀むことが出来た。近づき難いと思つてゐた雲煙の彼方の高峰のぼればのぼる道はあるものだ。といつたやうな氣安さを覺えた。同時に、地理教育に携はる我々として、深く省みなければならぬ暗示も多く受けたのである。

こゝにいさゝか讀後の所感を述べて、大方同好の士に訴へたいと思ふ。

辻村先生

が現代日本の地理學界の泰斗として、といふよりは我國最高の地理學權威者として職名かくれなきは今更筆者如きが駄言を弄するまでもない。沈黙寡言、然して體格雄偉なる貴族的な風貌は、純學者的タイプ典型とも稱すべきである。

現代本邦地理學の隆々たる盛運の先驅とも稱すべ

き地形學は、全く辻村先生のお力によつて育てられた。かの名著「地形學」は大正末期より昭和の初期にかけて、本邦地理學界を風靡したものである。所謂地理學界に於ける地形學黃金時代を現出されたのである。續いて昭和四年に「日本地形誌」を、昭和七年に「新考地形學」第一・二巻をお著しになつた。何れも地理學研究者によつては無二の寶典として崇められ、現在の地理學界に燦然たる光を放つてゐるのである。

先生によつて整然と體系付けられたる地形學の風潮は、やがて地理學の主流となつて來た。元來我が國に於ける地理學は極めて歴史の新しい若い學問であつて、今以て歐米先進國の地理學を移入しつゝある有様である。が、他國文化の消化力の強い日本の國民性は、地理學の方面に於ても大いに發揮せられ、次第に我が國独自の地理學は建設せられつゝある。此の我國独自の地理學の建設に對して、基礎となるべき大なる力は、實に地形學を以て第一とせねばならぬ。今日の地理學界には地形學萬能の黃金時代は去つたが、然かも地理學界に陰然たる主流をなすは地形學である。

今日の地理學は専ら人文地理學に傾き、就中經濟地理學政治地理學は二大思潮をなし、更に聚落地理學、景觀地理學等の新生面も開かれつゝある。が、

其の根底には悉く地形學の偉大なる培養力あることを忘れてはならぬ。

斯の如く、本邦地理學の育ての親とも云ふべき地形學の大家辻村太郎先生は、今や其の銳鋒を轉じて聚落地理學、景觀地理學の方面に進められつゝある。やがて地形學同様、辻村先生の偉大なるお力によつて立派に體系づけられて學界の動向を示されるであらう。

辻村先生は偉大なる地理學者であると共に、また拔群なる語學者であるといふ。英・獨・佛の各國語を初め、伊・和・丁・瑞等の諸國語にまで精通せられるといふ。歐米先進國より移入せられたる若き學問たる地理學を成長せしめらるるには、こよなき適任者と云はねばならぬ。

此の偉大なる本邦の地理學の大家辻村先生が我が小田原町の御出身たることは、聖農二宮尊徳先生を出したることと共に、ひとり小範圍の郷土の誇たるに止らず、實は本縣の大なる誇りとすべきであると信ずる。

今、辻村先生の地理學的隨筆「地圖雜感」を讀み

大家の少年時代の心持の妙味を知ると共に、日常地理教育に携はる我々として深く省みなければならぬことを痛感したのである。

先づ

少年時代の教育の重要性

を、此の隨筆の中に特に強く見出すのである。少年時代の教育の重要性を何も今更學者の隨筆などに見出すなど、教育者として愚かしいことのように嘲はれるかも知れぬが、こゝにはさうした理窟めいたことは一切抜きにして述べさせていた

「地圖雜感」の劈頭第一に

「昔は高等一年と云つた小學六年に相當する級になつた時に、自分は初めて足柄下郡誌と云ふ地理を習つた。學校は箱根に行く遊覽自動車がよく通る小田原城の箱根口といふ所にあつた。外の事は忘れたが、幼い時から朝夕に見て居ながら、二子山を除いては誰も名を知つてゐなかつた箱根の山々を、神山並に駒ヶ岳を初め、明神及明星や金時といふやうに、一々粗末ではあつたが地圖の上で指摘された喜びは、私に取つて天啓にも等しかつた。中學校に入つてからも、今は小田原驛のプラツトホームになつてしまつた位置に、海を見渡す丘の上の教室で箱根の二重火山を説明して貰つた時間などは、生涯を通じて最も幸福な時の一つであつたと思ふ。自分達の地理學修業は出發點に於いて極めて順境であつた。地圖に關する知識の涵養にも割合に有難い苗床が用意されて居たのである。」

と述べて、少年時代に於ける地理教育の有難さを披瀝して居られる。此と殆んど同様なことを「日本地形誌」の序文の中にも述べて少年の頃の地理的感化を懷しんで居られる。

「回顧してみると、著者が地誌に對する興味を感じたのは昨今の事ではない。二十年間の學習時代を通じて多數の教育者から殆んど間斷なく知識を啓發されて居たことは、今になつて初めて明瞭に氣が付いた事實である。先づ極めて素朴な地誌的興味が萌芽し始めたのは郷里である相模國小田原町の小學校で足柄下郡誌及び神奈川縣地誌を學んだ時である。中等教育の初めに際しては當時の神奈川縣立第二中學校教諭佐佐井信太郎氏から健全

な地理的趣味を鼓吹され、二年間の授業によつて亞細亞及び歐羅巴の地誌に關する極めて明瞭な印象が與へられた。」

其後の數年間は極めて地理教育上不遇な道を辿られたやうである。適當な指導を受ける事の出来なかつたわびしさを次の如く述べて居られる。(同上序文)「轉學した都下の二學校で地理的教育を閑却してゐたことは其の原因(先生の仰せられる不幸な教育の)であつた。従つて南米、北米の地誌は一世紀前の阿弗利加の如く暗黒になつた。中學生の年齢では最早單なる記憶材料は無意味になつたのである。」

我々は自ら省みて、此のやうな不満を教子に抱かせるやうなことはなかつたらうか。教へを受ける者の其の時にはさうしたことを意識するものは極めて少いであらうが、少年はいつまでも少年のまゝではゐない。やがては彼等は一個の成人となつて夫々の道に活動するのである。その頃には彼等は相當の批判力を持つてゐる。我々はその批判の鏡に照されて敢へて赤面する所はないだらうか。此の事は勿論地理に於てのみではない。我々の携はるすべての部面に於て云々さるべきものである。

然しながら、如何に勢力絶倫の豪の者と雖も常に非の打ち所なき用意周到なる授業をなし得ることは殆んど不可能である。殊に一人で多方面に於て活動せねばならぬ小學校に於ては尙更のことである。

茲に於て、我々は特に自分の興味を有する部面に遺憾なく自己の天分を發揮するやうに力めることが最も自己に忠實にして、然かも被教育者にとつてもそれが最も仕合せのことであると思ふのである。たとひ自己の力は弱く修行の年は淺くとも、ひたすら

に己れの道に修行を勵む熱と誠とは、必ずや形無き偉大なる力となつて未來ある少年の血の中に浸透することを確信する。是無くんば、いかでか教育の實績が期待し得られよう。日に月に育ち行く少年達と共に、教師自らも亦日に月に成長してこそ、眞に教育の効果は大なるを期することが出来るのであると思ふ。

少年の眼に映ずる地圖の妙味

が如何に深遠なものであるかといふことも、此の隨筆の中に讀み得られる。

「最初に見た地形圖の記憶は今も鮮明であるが恐らく二十萬分の一の縮製圖か、此れから作つた五十萬分一位の分縣圖であつたと思ふ。濱邊に立つて眞鶴の岬を眺め、其所を経験世界の果てと感じてゐた子供心には、伊豆の半島が熱海から南に下田まで、遙かに遙かに延びて居る有様は、確かに非常な驚異であつた。」

と少年の頃の無邪氣なそして大仰な驚異を述懐して居られる。

「十歳前後の興味は第一に、高く壁間に掲げられた掛圖に集中される。私が日本地理を習つた時には何んなに舊式な地圖を使用したかは勿論思ひ出す由もなく、たゞ大蓮華、小蓮華、御岳、鞍岳、槍ヶ岳といふやうな高山の名を一樣な栗のいかに似た形と共に、何か英雄の名前でも聞くやうな氣持で覚え込んでしまつた。其れだけに日本アルプスの名が聞え初めた頃に、槍ヶ岳は名のやうに尖つた岩峰である」と知り、大蓮華は白馬岳で氷河の遺蹟があり、立山にはカールが形成され、御岳や乗鞍は大火山だと知つた喜びは譬へやうがなかつ

た。
水晶のやうに透明な少年の脳裏に、地圖から湧き出づる妙味が如何に快く印象づけられて行くか、この述懐によつてよく偲ばれるではないか。然し

「九州の南端には鹿児島湾内の櫻島に火口の記號があつて、龍の口に含んだ珠のやうな形を見せるのを珍しく思つても、阿蘇のカルデラなどは片鱗も見せず、島根半島の内側に宍道湖が横はる有様は圖帳を開ける度毎の楽しみであつても、夜見が濱の性質を教へて呉れる人はなかつた。」

と後から見る軽い不満は確かにあつたのである。けれども其の當時としては無理からぬことであつた。既に地理學のかかりに進歩した今日でも小學校でさうしたことを教へることは殆んどない。其の必要を認めないのが一般である。然し特に地理に興味を持つ子供には相當高い程度にまで地圖の魅力を感じてゐるものであるといふことを考へさせられるであらう。折にふれて子供達から之に類した質問を發して來た時、即座に納得出来るやうに説明してやることが出来たら、子供も先生もどんなに愉快なことであらう。

「等高線で示した正確な地形圖を初めて見たのは十二三の頃であつたと思ふ。今でも明瞭に思ひ出されるが、冷やりとして薄暗い倉の中で、山上萬次郎氏の地文學であつたか、箱根の火山地形を示した圖版を見付け出した喜びは、とても現今の學生達には想像されまい。陸地測量部の二萬分一地形圖は小學校の教員室と、演習の時に宿泊した將校達が披けて居たのを、墨流しの模様のやうに神秘的な感じで眺めたぎりであつた。」

師範學校の二年生（今の三年相當）になつて、教練

の時に始めて五萬分一の高座郡南部を見た筆者などとは比較にならぬ程早く見られたのである。こゝにも辻村先生の恵まれた少年時代が羨ましい。更に「然し此の貴重な圖に親しむ機會は間もなく來た。中學の二年から三四年にかけて、自分は此の二圖（明治十九年測量の箱根驛、小田原の圖葉）を懷にして暇さへあれば箱根の山間を歩いた。」

を讀んで、成程流石は本邦最高權威の地理學者の少年時代であるなど感歎せずには居られなかつた。筆者が陸地測量の觀方をひとりおぼえに習得して、むちやくちやに子供らしく近邊を歩き廻つたのは教壇生活を始めてから三四年であつたのを思ひ起すと、良き指導者のあつた先生の少年時代が誠に羨ましい限りであつた。それから

「山頂にある三角點や獨立標高點の記號、今になつて考へると嘉永地震の名残もあつたに違ひない『びやく』と呼ばれる野山の崩土、森林の中を通ずる赤土の隘路、一棟毎に小屋までも細かく記入された村落の家屋、其等を點檢しながら山野を跋涉するのは至樂であつたが、河岸段丘や峽谷の言葉も知らず熔岩圓頂丘や斷層崖の存在など聞いたこともない時代の旅は、氣樂でもあるが憫むべきものだつた。健脚な母と富士に登つた時にも、二萬分一地形圖は携へたが、熔岩流の形にも氣が付かず、寶永火口が三連になつてゐるのは無論知る筈もなかつた。」

と當時の臨地踏査を回顧して居られる所を讀むと、筆者も相模野臺地の幼年谷や引地川の先行谷も知らず、相模川沿岸の河岸段丘も知らず、關東山麓麓臺地帯の南部核心地たる桑の一大集積的地域さへ念頭になく、全く夢中で歩き廻つた數年間がをかしくも

あり情なくもある。

陸地測量部發行の五萬分一や二萬五千分一の、せめて觀方だけでも師範學校時代に教へておいて貰つたらどんなに仕合せだつたらうか、とつく／＼少年時代の地理的教導のわびしさをかこつのである。然し師範二年生の時に、大正十二年の大震災でつぶされて其のまま露天に放り出されて一年餘の雨風にさらされて見る影もなくなつた富士山の模型の骨だけになつたのを見付け出して、ボール紙を等高線によつて切抜いて段々と重ねて行けばどんな土地でも如實に示されることを獨り合點し、早速五萬分一の陸地測量を求めて長い夏休み中一生懸命にやり、更に第二學期一ぱいかかつて漸く仕上げ得た喜びは、今思ひ出しても微笑ましい。一日の授業が終ると急いで自分の室（寄宿舎）に歸つて來て、午後九時寝につくまで、少刀一挺で一生懸命にこつ／＼やつた當時が何とも云へない程懐しい。同室の一年生だつた大久保正治君や熊坂太松君などもよく手傳つてくれた。半年がかりで出來上つた箱根山及び丹澤山塊の模型をじつと見て、箱根火山の特殊型が堪らなく面白く、放射狀に見事に刻まれた山裾が全體としては富士のやうになだらかに遠く緩斜してゐる様子に無限の興味を感じ、更に壯年地況の丹澤山塊（勿論當時は無意識）の複雑な素晴しく美しい巒や、秦野盆地の方形凹陥地や、幼年臺地（これも無意識）の綯綯地塊などの緩起伏などを眺めて陶然とした有様が恰も昨日のこのやうに思ひ出される。

出來上つた模型を地理科擔任の本本常吉先生に見ていたといふ時、こんな模型は買つたら四五十圓もすると云はれて大いに驚き、又それだけ得意の度は大きかつた。本本先生の御配慮によつて其の模型が

立派なガラス張りの函に納められ、校長室に置かれた時の氣持は全く天にも昇るやうであつた。當時本本先生は第二附屬正修小學校の校長を兼ねて居られたから、其方へも暫くおかれたらしい。當時同校の訓導だつた今の小田原高女の守屋大輔先生が、自分の卒業近い或日江島電車の中で「あなたがあの模型を作られたのですか」と云はれた時のうれしさも忘れられない。

卒業式の當日 愈々すべてを終へて卒業證書と小正免許狀を手にして、迎へに來てくれた父を伴つて校長室に置かれてある自分の作つた模型を見せた時全く地理などに無關心な純農業の父にはその模型の眞價などとても解つては貰へなかつたが「よくこんな立派なものを作つたなア」と感歎してくれた喜びも亦忘れられぬ印象である。

卒業以來十年餘 其の間一度もかの模型を見る機會に恵まれなかつたが、今でも母校にあるか知らん。今秋催されるであらう十年講習に、若しそれを見る事が出來たら、と胸のときめくを覺えるのである。勿論幼稚な當時の少年の手でこつ／＼作つたものであるから今日澤山ある立派な模型に比べればもとより甚だ粗末低級なものであるが、當時としてはずいぶん珍重されたものである。

辻村先生の少年時代の述懐を讀んで、今一つ思ひ出すのは自分の小學校時代の恩師の一人たる都筑郡山内第一小學校長の

原 正 雄 先生

の御熱心なる御教授である。郷里中郡金田小學校で尋三、四、五と三年間續けて原先生の御教へを受けたのである。先生は當時師範學校を卒業せられたばかりの名實共に若い先生であつた。従つて老練な

た。

小學校に於ける地理學習の最初の五年の時に原先生によつて培はれた地理的趣味は、育成されるのに決して恵まれた道程は歩めなかつた。これまでの自分の地理修行の効果が遅々として進まなかつたのは一に以て自分の努力の足らない爲であるが、一方には適當な指導者に恵まれなかつた（少年時代に）ことも一つの原因ともなつてゐると思ふ。

此の苦い體驗を自分の教子には味はせたくないと思つて、出來るだけ自分の教壇生活では努力して來たつもりではあるが、所詮は小さな偏屈な獨善主義であつたかも知れない。之を批判するのは、自分の膝下に育つた約三百の教子の成人後である。自分は今靜かに彼等の批判を受けようと思つてゐる。

最後に一筆附記したいのは、自分の眞の地理眼啓者である所の現湘南中學校教諭の香川幹一先生である。先生に始めて拜眉の榮を得たのは昭和六年の正月、當時の平塚第一小學校訓導中丸壽郎氏（現南洋カービー小學校訓導）に伴はれて行つた時である。爾來先生には一方ならぬ御指導と御鞭撻を受ける。現在も尙教へを受けつゝある。香川先生の御指導に對しては他日筆を改めてものする機會もあらうと信ずる。こゝにはたゞ記して感謝の微意を捧げるのである。

辻村先生の「地圖雜感」から、つまらぬ筆者自身の雜感になつてしまつた。若し此の駄文の中に多少なりとも共鳴して下さる同好の士があれば、望外の喜びである。（をばり）

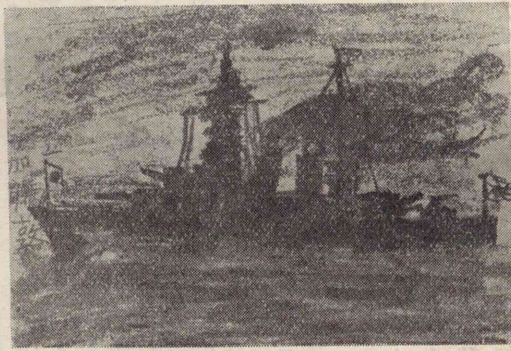


子良 尾 中 二尋屬附師神

神師附屬尋一 阿部禮子



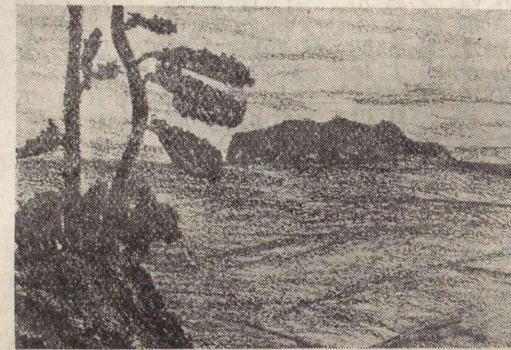
逗子尋一 加藤 敦



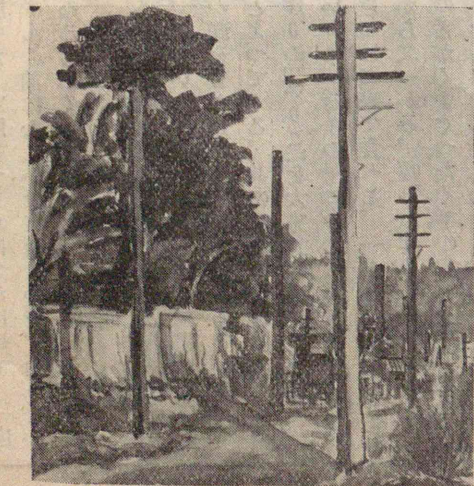
逗子尋六 内田英夫



腰越尋四 横山三郎



鎌倉第一高二 木村武雄



神師附屬高一 福本利助



雨ガ
リ出
ス

(附屬校) 藤村哲司

春の朝
つみ草

(二) (鎌倉) 古川桂子

らつぱ
を吹く

八月十二日 (腰越校) 村田善男

汽ーや
でん車

逗子小學校 第三大和田静子

黒潮速き
熊野なだ

(腰越校) 尋五 大澤 名

切る掘る
運ぶ誰も
一心不乱

五・六 (鎌倉) 木村 千恵子

飛行機
航空路

(附屬校) 五 男 古城正俊

右に見ゆるは名高き御寺
左に遠くかすむは古城

逗子小學校 尋六 及川博通

心構丹青
筆勢非凡
牛乳原料

逗子小學校 山下尚子

空夜窓閑
深更軒白

(附屬校) 高一 黒川治男

澄神静慮
具在筆端

高等二年 (鎌倉) 松岡久治

盖相追随
明月澄清

(腰越校) 高二 中村幸作



兒童生徒作品欄

釣 り

附屬四男 野 口 光

僕が五つ六つの時のことだつた。叔父さんとお父さんにつれられて金澤の海へつりに行つたことがある。少し沖で釣りはじめた。波はあらくないが、小舟なので、ぐら／＼ゆれる。あまりいゝ氣もちはない。僕はまだ釣り方を知らないのでも水中を泳ぐ魚や美しい海藻に見とれてゐた。が時の立つにしたがつてあきた。そして釣つて見たくなつた。そこで叔父さんにせがんでつり竿をかりて糸を静かに海にたれた。その中に眠くなつたのでいつかうと／＼した。突然引つぱつたものがある。はつと氣がついて竿をぐんと上げた。顔に水がびしやつとはねかへつた。「しめた。」「大きいぞ。」と思つて見たら長さ七厘ほどのすつきりした魚が糸の先についてゐる。少さいので少しがつかりしたが釣れたので鼻を高くして歸へつた。

待ちかまへた夕飯テーブルの上にならんだ魚「僕の釣つたのだ。」と喜んで皿を見るとちがふらしい。「僕の釣つたのは。」女中にきくと、「水を流す時穴へおちてしまいました。」といつた。僕はくやしくて／＼たまらない。「残念だ」「せつかく釣つたのに。」と後でさん／＼駄々をこねた。

お隣りの猫

鎌倉第一六男 神 崎 郁

地面にはらばひながら今日も又「ミー」はとんぼをねらつてゐる。ふさ／＼した茶色の毛は見るからに可愛らしい感じがする。ミーはお隣の猫なので、何でもお隣りでは、子供さんがあまり居られないので、あのねこのミーちゃんを子供の様に育てゝ居られるのださうです。

首の桃色のリボンに通した銀色の鈴は、ミーちゃんがちよ／＼と歩きたびに、可愛らしい音を立てゝ鳴ります。鈴が鳴るとミーもうれしいのだらう。感心に首を振つて歩いてゐるやうに見える。

御飯の時には、女中さんが、「ミーちゃん／＼」とよびに來られる、今まで裏の畑で遊んでゐたミーちゃんは、其の聲を聞きつけると、ふりむいて一目散に走つて行きます「あゝよし／＼、ミーちゃん／＼。」

まるで人間に話してゐるやうだ。思はずき出す事も度々ある。

ミーの一日の仕事は、御飯以外の時は何時も畠で何かに飛びついて見たり、土を掘つて、おぢいさんが折角一生けんめいに植えた「百合」を、引きぬいて見たりするのが一日の仕事らしい。一寸もじつとしてゐる時がない。

其のいたづらもの、ミーちゃんも時には淋しうな聲で「ヤー、ヤー」と鳴く時があります。私は其の淋しさうな聲を聞くと、つい行つて上げたくなる。

御飯が始まつて、私達が學校の事などにぎやかに話し合つてゐる時、何時の間に、ミーがちゃんと物置の方へ來てゐる。見つけると御飯も途中でや

／＼とお勝手から下駄をつゝかけてかけ出す。一度にミーちゃんの前におしかけて行くので。始めはこはがつてゐるらしく「古ながし」の横にかくれてゐる。

それでも黙つて見てゐると、ちよ／＼と首を出しはじめ、こわいのか、それとも一緒に遊びたいのか、私達の顔をまぶしそうな目で見てゐる。やがて一足々々としてくる。其の時には何時もおだしにつかつた残りの「いりこ」を大方食べさせて上げる。

私が「いりこ」を手の平にのせてゐると、其のにほひをかぎつけて來て食べる。一かみしては周りを見廻しながら又一かみ。暖いねば／＼した小さいミーちゃんの舌がくすぐつたく手の掌を上下する。

又ミーちゃんは飛んでゐる虫を取るのが上手だ。虫をみつけると、お尻を高くして、「ゴロゴロ」となり、虫を見かけてひよつと飛びつく。其の様子はほんとうに可愛らしい。

可愛らしいけれど取つた虫を食べるらしい。きたないやうな恐いやうな氣がする。

今も元氣に畠を駆け廻つてゐる。勉強も終つた。

此 の 頃

逗子校 中 村 民 子

青い大空に飛行機がばく音をたてゝ飛んで行く。兄「すぬ分大きいなあ。」

私「一度乗りたい位。」

姉「あれを見ると心が勇みたつて北支の事を思ひ出すわ。」

みんな思ひ／＼の感想をのべてゐる中に飛行機ははや空の彼方に飛んで行つてしまつた。此の頃いつきりなしに飛行機が飛んで來る。あの猛練習をするからこそ我が空軍は強いのだ。時には一度行つたのが又歸つて來る事もある。

小兄「お兄さん！又號外が來た。」

差し出された號外を見るといんさつの跡も黒々と我が空軍の勇ましい記事や破くわいされた上海の町の様子がのつてゐる、お兄さんを中心にした私達は支那の様子を思ひ浮かべながら色々と話始めた。

私「日本軍は強いね。それなのにどうして事變が長びくのかしら。早くやつつけてしまへばよいのに。」

兄「今の支那は昔と違つて國民が日本をやつとけると言ふ一すぢの心にもえてゐるから強い。支那の少女と日本の少女とくらべると支那だつて少しもおとつてはいない。かへつて日本の少女達よりも一致協力してゐるかも知れない。」

私は自分も儉約を守り心を固め戦地の兵隊さんをなぐさめ様と思つた。いや私ばかりでない、今の日本國民は誰でもさう考へてゐるだらう。

兄「千人針を街頭でやつてゐるだらう。あれは布を二枚にしてよくと兵隊さんが汗をかけた時、布と布との間にしらみやのみが入りこむから一枚にした方がよいと新聞にかいてある。」

私「お兄さん私はこんな話をききました。それはある人が『千人針をやつて下さい。』と言はれた時『今一寸用事がありますから。』とことわるとそばにゐた人が『皆が兵隊さんの爲を思つて千人針をやつてゐるのに一寸位やつてもよさそうなものだ。』と言つてその人をはりたふしたさうです。」

考へるとほんたうに亂ぼうであるが、これも國民の兵隊さんと思ひ、一つでも早く千人針を仕上げたいと言ふ熱心な心のあらはれであると思ひました。私「今は何所に行つても千人針々々で大變ね。」兄「日本は婦人子供までその心持があるから強いのだなあ。」

しばらく話がとぎれた。傍の號外を見ると或一人の兵士が君が代を歌ひながら静かに息を引とつたといふ日本の軍人らしいつばな最後が書いてあつた。悲しい記事、うれしい記事、心のどる記事、私達は新聞によつて事變の様子を知る事が出來、それを讀むと心がどり感激せずにはおられない。

出征兵士

腰越校高二男 坂 水 幸 男

夏の眞晝、焼けつく様な白熱の太陽はアスファルトの歩道を白く照らして、まぶしい光の中を、とんぼが一匹すうと飛んでゐる。空は今日もからりと晴れて、人も車も牛馬も木も、あらゆるものは皆雨を待ちこがれて居る様である。突然、ゴーと汽車の通る音と共に嵐のやうな萬歳の聲が起つた。それつと店に居た人も道を歩いてゐた中學生も我先にと走つて行つた。僕も其の後に急ぎ足で行くと、

貨物列車に出征兵士が一ぱい乗つてゐる程に振つてゐるではないか。自分も急いで送つてゐる人々の所へ馳けつけ帽子をぬいで、一しよになつて萬歳を叫んだ。列車に乗つてゐる人々の顔には、はり切れる様な元氣が満ち／＼と居た。次々に列車は過ぎ去つて行く。然し兵士さん達は上半身を乗り出

兒童作品募集

- 一、種 目 書方、綴方、圖畫
- 一、題 材 自 由
- 一、締 切 毎月十日
- 一、宛 名 神奈川県師範學校附屬小學校「武相教育」編輯部
- 一、注 意 作品には必ず校名、學年、氏名を記入の上書方三點、綴方一點、圖畫二點學校としておまとの上御發送願ひたし

のまゝに動いた。それから「やあ誠に御足あかけました、實はあなた方が本島を視察して来られたことを知りまして御尋ね仕様と思つて居りましたが島内にての思想上の御感想を」と誠に突然で私も痛み入りまして一通り本島人の感情が旅行者には良からぬこと、臺南神社での話などをした。所が「其の通りです」として「近時思想上頗る破綻を來たしてゐる今こゝに居る五人の者は本島人有識者で皆相當陰謀の巨頭と目されるもので之より取調をする所である。」と聞かされ恐ろしさを感じたと同時に事情が判明し痛切に新領土の行政の面倒さを感じた。

内地へ歸り各所で旅行談を試みてゐた昨年十月でした、三年前から臺灣に於て記事差止めをして居つた臺灣陰謀團の記事を解禁されたのを見て「さては之れだな」と職員と共に成程と語る内に局長の憂ひたのはこゝだなと當時可なり切迫してゐた時であつた事などが今更明白となつて心中愉快であつた。

序に思想問題と關連して新高山を少しく述べて終りませう。

自動車で鳥山頭貯水池を見に行く途中であつた、車窓より前山を望み見たが新高山は何れか見當がつかない、そこで運轉手に尋ねた「譯りません」。再び問ふたが「知りません」といふ答は誠に不思議千萬臺灣の交通に働いてゐる者が新高山を知らないとは何としても受取れぬ、けれども良く／＼考へて見ると無理はなかつた、新高山は多くの相接した側峯（東山、西山、南山、北山）があつて新高山は其の中にある高峰であるから特に新高主峯と稱してゐる。登山してゐても其の途中ではどれが新高山であるかに迷ふ程で全山の形といひ岩石の配置といひ全く出

表紙繪寫真について

表紙繪寫真は、神奈川縣師範學校附屬小學校々庭の一隅に建設されてゐる二宮尊徳先生の銅像であります。かはらしい、親しみのある、且つ不屈の精神に燃えて居られる十二歳の先生が、酒匂川邊の蛇籠の上で休んで居る村人に、昨夜遅くまでかゝつて作つた草鞋を、自分の働きの少なさを償ふためにとて、與へられて居られるポーズであります。

實に先生の生涯は身を碎いて世に盡す「至誠報徳」でありまして、當に非常時である現代は、兒童にこの奉仕的精神を涵養することの必要を痛切に感じ、こゝに彫刻界の權威者、構造社展同人、中野吾一氏に委嘱して、この精神を表現し、以つて兒童教養に資しつゝあるわけでありまして。道徳的にも、藝術的にも誠に豊かな味のある銅像であります。



青木小學校のプール開

(七月十九日)

市内青木小學校は創立以來茲に滿三十年更に本年改築工事成るに及び同校後援會は之が記念事業につき學校當局と協議し先に協賛會を組織佐伯藤之助氏中心となりて資金を募り次の三大計畫を建て進捗中であつたが今回其れ等事業の略完成を見先づ其一としてプール開を行つたが兒童教育上誠に慶賀すべきだ。

- 一、國體明徴に關する施設
 - イ、國旗掲揚
 - ロ、皇大神宮、橿原神宮、明治神宮の奉安
 - ハ、孝子忠臣の祠奉安等
 - 二、體育衛生に關する施設
 - イ、齒科治療設備
 - ロ、眼科治療設備
 - ハ、プール設備等
 - 三、兒童學習に關する施設
 - イ、兒童博物館設備
 - ロ、國語館、國史館、地理館、理科館等
 - ハ、理科室設備
 - ニ、理學設備、幻燈設備等
 - ハ、刺繍手藝作法室設備
 - ニ、兒童圖書館設備
 - ホ、全教室擴聲機設備等
- 何れも教育上稀に見る施設で本市は勿論全國小學校中先鞭をつけたものなり、同校兒童の幸福は元より本市教育上誠に慶びにたえな

い次第である。

向こゝに特記すべきは會長佐伯藤之助氏の熱誠と努力の大であつたことであらう。同校關係者の等しく放つは其の感激の聲である。

以上は稍々標題に遠ざかつた嫌はあるが次にプールの概要と次第を記して結ぶことゝす。

プールの概要

- 一、構造 鐵筋コンクリート、四方タイル張
 - 吸水管 二吋一本(満水約七時間)
 - 排水管 六吋一本(排水約二時間)
 - 一、長さ 二十五米、巾七米
 - 深八〇釐、一、五五方米
 - 満水量 一九二、五立方方米
 - 一、工費 三千六百餘圓
 - シャワー六ヶ、洗面所一ヶ所
 - 洗眼装置四ヶ、脱衣場、其他
 - 一、消毒薬 カルキ、硫酸銅
- 次 第
- 一、修 繕
 - 一、經 過 報告
 - 一、祝 辭
 - 一、授 旗
 - 一、式 泳
- 兒童代表 以上各種泳法
- 職員代表 來賓 (神奈川區通信員M O 生)

栗田谷小學校のサンルーム

神奈川區栗田谷小學校は衛生養護施設の完備せる點に於てすでに知られてゐるが、先には太陽燈を設けて兒童養護の先鞭をなしたが今回又同校後援會長小泉由太郎氏中心となりプール及びサンルームの建設を計畫し今回

其工成るに及び去る二十六日プール開きと共にサンルーム開きを行ひ父兄並に校外に向つて披露の式を挙げた。プールについては青木小學校と相呼應して細心の注意と努力とによつて工を竣つたが誠に青木小學校と共に本年の雙壁ともいふべく殊にサンルームに於ては縣下に例を見ないものであり、同校兒童の保健上其効果の大であらうことを思ひ教育界の美事であることを喜び同校職員各位の研究と努力に期待と敬意を表するものである。

(神奈川區通信員M O)

愛 厚中プール

東京「オリビック」を三年後に控へ水上日本の世界に覇をなしたる今日厚中中學校に於ては昨年夏よりプール建設に着手し本年六月之れが竣工を見る。

構造は全部鐵筋コンクリートを以てす

長さ 長邊二十五米、短邊十三米

水深 一米二十釐乃至二米五十釐

コース 六コース

建設作業 主として生徒及職員に力に依る

總工費 六千五百貳拾九圓四拾七錢

内 訳

- 一、敷地買収費 金九百貳拾八圓五拾錢
- 二、プール建造費 金四千四百拾四圓參拾壹錢
- 三、附屬建物其他 金七百八拾六圓六拾六錢

生徒及職員作業日數九十二日にして其の延人員實に六千六百八人

倉 第三回小學校 劍道講習會記

(厚木通信)

神奈川縣小學校劍道研究會主催、神奈川縣教育會後援の講習會は例年の如く、炎熱身を焼く八月一日より五日間、鎌倉の師範學校に於て開催された。本年度講習會の特徴とする處は、本會が初めて作成したる小學校劍道細目に準據して、それが研究練習をするにあるその爲か講習員は例年より激増して四十有餘名の多きに達した。

先づ佐藤禮云會長の辭あり、世界の大事より現代日本の狀態に説き及ぼす我々青少年の剣道による心身修練の必要を力説する。次いで本講習會の眼目たる細目解説は八時間の長きに亘りて門田講師より詳説せられ、なほ荒井友三郎講師より紙芝居による國體明徴に關する講話、石川八代次講師より小學兒童(第二部講習生)に對する訓話あり、毎日の地稽古には門田、石川、四澤の諸講師の熱心なる指導に汗を絞り、其の他帝國劍道型の説明に、審判法の特別練習等短期間であつたが實に内容の充實した講習會であつた。

我研究會は今や縣下に二百餘の會員を有し微力乍ら相提携互に研究を続け、縣下小學校劍道の普及發達の爲努力し來りつゝあり、有志にして入會の希望あれば雙手をあげて歡迎し、又小學校劍道に關する御相談にも喜んで應じたいと思ふ。

國民融和の徹底を期する
國史教案懸賞募集

神奈川融和教育研究會

融和教育教案懸賞募集

一、教 材

小學國史教科書中より隨意選擇すること

二、對象兒童

(イ) 一般兒童のみを對象とするもの

(ロ) 關係地區兒童の混在するもの、右何れにても可なるも、其旨明記のこと

三、審査の要點

(イ) 一般國民教育の基調に立ち融和精神の涵養に資するものなること

(ロ) 無理がなく、しかも強く融和觀念を徹底するに足るものなること

四、審査官

縣視學官 男女兩師範學校長

五、賞

入賞者には賞狀並に賞金を呈す

一等 十圓 (一名)

二等 五圓 (二名)

三等 三圓 (三名)

佳作 賞品 (若干名)

六、締切

昭和十二年九月三十日

七、發 表

昭和十三年三月號『青和』『武教育』誌上に於て發表す

八、原稿届先

神奈川縣廳社會課内「融和教育研究會懸賞係宛」

本市教育向上促進の
研究論文募集

川崎市教育會にて

日本の心臓と云はれて、其の重要な工業港灣都市たることを認められ、且つ人口増加率は、我が國第一と稱せられて、其の躍進に對し驚異の目を刮らしめつゝある川崎市は、其の施設と行政に對しては、各方面より深い研究の下に營爲さるべきであるが、教育上に於てもかゝる躍進途上の本市教育の實際を如何にすべきかは又重要な課題たるを失はない。そこで本市教育會では今度賞を懸けて本市學校在職者より教育實際研究論文を募集することになった。其の要項は次の通りであるが、今回教育會の此の事業に對しては各方面より多大の期待が懸けられてゐる。

△教育實際研究懸賞募集

一、題 目

1、川崎都市に於ける健康教育實施案

2、川崎都市に於ける兒童生活訓練實施案

3、私の學級經營案

4、本市教育の要素としての川崎都市形態の研究

二、資格 本市學校在職者

三、用紙 四百字詰原稿 枚數制限なし

四、締切 昭和十二年九月末日

五、届先 川崎市役所學事課内 本會事務所

六、發表 昭和十二年十一月三日

七、賞金 各問題毎に教育會賞並に市長賞贈呈

八、審査員 學者 専門家 實際家に依頼す

會員の皆様へ

本誌小なりと雖ども武相の教育者萬餘の靈を藏してゐる。吾々教育會々員の唯一の、或は思想交換の、或は研究發表の、或は相互教育活動報告の機關なのである。會員各自各の目的使命を意識せられて、神奈川縣教育の向上發展のため、將又教育者各自の内省を深化するため大いに御投稿あらんことを切望するものである。

僭越ながら本號よりこの編輯事務を當附屬小學校ですることに御引受致しました。編輯委員長結城先生を始め中央編輯委員及各郡市編輯委員並に各會員の熱心なる後援々助によつてこの大任を果たすことが出来ると確信したからであります。吾々の『武相教育』をして愈々その精華を發揮せしめらるゝ様十分の御後援御鞭撻を御願する次第であります。尙御投稿について左記御一讀を願ひ上げます。

一、原稿切は毎月十日であります。

一、御投稿は名士の講演、論說、主張、研究學校乃至各支部通信等も意味深き故、従來通り大いに御投稿を御願申します。更に今後はこの仕事を實際教育にまで掘り下げて参りたいといふ念願から「教育の實際」及「兒童生徒作品欄」等を新設致しました。會員皆様の力によつて、にも美花を咲かせたいと思ひますから、教育の實際、生徒兒童作品として綴方、書方、圖畫等の成績及寫眞等を大いに御寄稿下さる様願ひします。

一、原稿御送附先は従來通り神奈川縣廳教育會宛にても差支はなく、更に直接、鎌倉町神奈川縣師範學校附屬小學校武相教育編輯係宛御送附も差支ありません。

武相教育編輯部 以上

編輯後記

酷暑と旱天に戦ひながら、夏季の學校施設を遺憾なく終了して、秋風と共に、新しい意氣と抱負とにけちされた心身をもつて校門をくぐり第二學期を迎へました。

隣邦支那との關係は益々惡化し、陸海空軍米各國との國際關係も極めて樂觀を許さぬ狀勢にあり、内外共に非常緊迫のとき、この時局に際し、國民教育の第一線にある吾々の使命も、昨日よりは今日、今日よりは明日と、愈々その重きを感じずには居られせん。

教育をもつて國に報すべきのとき、この大任を自負しつゝ、精一杯の努力を拂つて來たわけでありつゝ、

附屬主事内田先生には極めて意義深き所論を、職員先生には引き續き聖跡の調査を、井出先生には地理雜感を讀みてなる稿を、先生には御多忙中にもかかわらず特に教育會長歡迎の文を、それ〴〵紙面を御賑し下され女子附屬小學低學年研究部よりは書寫力の調査を、津葉先生よりは合科教育についての御寄稿を得、實際教育に裨益する所極めて大であらうと信じます。その他各地方通信、兒童成績品、文藝文等趣味豊富な御玉稿の御寄稿を、充實した内容の本誌が出来ましたことを會員諸氏に多謝致します。今後益々積局的な本誌への御援助、御鞭撻を御願する次第であります。

錄 倉 町

神奈川縣師範學校附屬小學校 武相教育編輯部

昭和十二年九月二十日印刷

昭和十二年九月廿五日發行

神奈川縣教育會代表者

神奈川縣教育會代表者

櫻 井 諭

印刷人 鈴木 木 清 五

印刷所 廣 活 版 合

發行所 神奈川縣教育會

昭和八年七月二十七日第三種郵便物認可
昭和十二年九月廿五日發行(毎月廿五日發行)